

学校教育目標

笑顔で

かしこく

たくましく

上谷の丘

～ 本当の笑顔と学びがある学校を ～

坂戸市立上谷小学校 学校だより

令和3年11月24日 NO. 17

文責 校長 柴崎 利美

児童数183名(11月24日現在)

コロナの備えを・もう一度

～ 感染症の季節到来

身の回りの「あたりまえ」の再点検を ～

新型コロナに関しては坂戸市でも県内でも、全国規模でも感染者数は激減しています。ただ、世界規模で見れば、特にドイツや韓国など深刻な状況が続いており日本の今の状況は奇跡的ともいえると思います。日本人の高い衛生感覚と島国という地理的な要因が考えられます。気になるのはビジネスでの空からの来日です。入国に際しての要件が緩和され、ハードルが下げられたことには一抹の不安を覚えます。あってほしくないのですがコロナ感染があるとすると、感染の初期は子供→大人ではなく、大人→子供と考えるのが自然です。子供たち、上谷っ子たちを守るため私たち大人がもう一度気を引き締める時と思います。ちょうど1年前を思い出し、きちんと対策をしていきましょう。「風邪」「インフルエンザ」対策も同時進行です。最後に上谷小の合言葉「てまけん」を再確認しましょう。… て・手洗い、ま・マスク、けん・検温と健康観察



あいさつ+α = 素晴らしい一日

+α = もうワンアクション = 心の扉を開ける身近な魔法

前々回の「お話朝会」の内容、あいさつの中の礼儀で、あいさつのあと「今日は気持ちのいい天気ですね。」と言ってみます。とお話をしました。その後、何人かの先生が率先して子供たちを促しているのです。「おはようございます。今日はどんな天気かなあ？」と。これは非常に大切な事と思います。ちょっとしたことですが、あいさつに続く言葉はその人とつながる気持ち、つなげる気持ちがないと言葉は続かないし、考えもしないからです。さて、実際に小学生が「おはようございます。今日もいい天気ですね。」「こんばんは。ワンちゃん可愛いね。」と言えた場合、特に1～3学年の児童が自然に言ってくれたら私など腰を抜かしそうです。防犯上、まったくの知らない人には難しいと思いますが、親類縁者や知り合いの人であれば「うわあ、〇〇ちゃん、大人になったねえ！そんなあいさつができるの？」と相手はびっくりすると思います。もしかして、お年玉増えるかな？



あいさつ+αは以前、中学校で学年主任をしていた時に実際に試みました。背景には「あいさつはよくできるが、その後の行動がよくない。」と近隣の方に指摘を受けたことからでした。具体的には、夕方サッカーボールをマンションの壁にあてて練習している子がいる。「こんばんは」とあいさつ立派だが、「ここは練習できないところだよ。」と言うと「うるせえ〇〇〇！」と豹変(ひょうへん)するということでした。悲しいかな「こんばんは」が単なる符号でしかなかったということです。

上谷っ子たちが「あいさつ+α」の児童に変容するには、まず私たち大人（教員も保護者も）が、そのようにならなければならないと思います。あとワンアクションあります。なんだと思います？そう「笑顔」です。あいさつ+αに続く明るい笑顔です。

昼の放送劇・スパート！

コロナの影響もあって今年はなかなか思うように進みませんが、2学期に入り6年の「なめとこ山の熊」の最終話を終え、1年の「3匹のやぎのがらがらどん」もヤギのたんじろうがいた時期に合わせ、放送を終えました。一番目、二番目のヤギのと



（ がらがらどんの本番 1年 ）

ぼけた感じや三番目のヤギやトロルの迫力はなかなかのものでした。以前にも触れましたが、役になって声を出すことは、例えばハロウィンに大好きな衣装を着ること「変身」することにつながるものがあります。変身願望は誰にでもあり、自分を客観視（理解）するいい機会でもあると思います。私の予定と子供たちの予定が合わず、練習が後手になることもありますが、26日（金）は2年生による「ざしきわらし」を放送します。方言もありますが2年生も上手です。12月には3年「くるみ割り人形」と職員による「（ああ）野麦峠」を。3学期には4年「ゼロ弾きのゴーシュ」、保護者PTAによる「グスコブドリの伝記」を予定しています。

「失敗の仕方・負け方」考 ～ できるようになるためのヒント ～

少し前のテレビCMで何も得意なことがないお父さんに、小さい娘が「お父さんはお父さんでいいんだよ」というようなことを言ってなぐさめるものがありました。私が子供だったら、お父さんはお父さんで凛としていてほしい。やはり人に認められる得意なことが一つはあって欲しい。「おれの父ちゃんすごいでござる」って。そう思います。けれども、真剣にやっているだけどうまくいかずダメダメで、それこそ落ち込んでいるお父さんがいたら、子供の私も一緒にそれこそ落ち込むと思う。まったく同じように背中を丸めて。一緒にいたら、そのうちなにか言葉をかけるか立ち上がるかわかりませんが、どちらがそうしてもお互い理解できる。体の半分は同じで親子なのですから。100の親子があるとしたら100のシーンがあって、ただそこにいてくれることが、恥ずかしくても辛くてもお互い本質的な支えと



なっているのではないかと思います。それは貴重な時間だと思うのです。サッカーの試合で負けた時、それが接戦であっても「負けたということは弱いからです。」と言って、誰がこうしたから負けたとは決して言わない。口答えは決してしない。さっと引き上げる。まさにこれが礼儀だからです。

大人が失敗したり負けた時のことを子供はよく見ている。子供が大人になって失敗したり負けた時、同じようにする。ごまかせばごまかすし、泣けば泣く。反省・検証して次のことに黙々と取り組めば、黙々と取り組む。「父ちゃんは泣かなかった。何でおれが泣いているんだ！くそっ」と思う。人生、誰だって勝つ事より負けることの方が多いに決まっています。その時の大人の対処の仕方が「負け方」が、子供の大いなる学びにつながっているということを今も肝に銘じています。